

特集
第2回

厚真町 ローカルベンチャー等 推進事業 について

厚真町では、平成28年から「ローカルベンチャー等推進事業」に取り組んでいます。厚真町での「挑戦」の数を増やし、町内外からの挑戦の連鎖を起すことを目指しています。

先月号でご紹介したとおり、本事業は「ローカルベンチャースクール運営事業」「関係人口創出事業」「基盤整備事業」「情報発信事業」の4事業から構成されています。

今回は、本事業の中心的取り組みであるローカルベンチャースクールについて紹介します。

ローカルベンチャースクールとは

起業型地域おこし協力隊の選考の場

厚真町で活動する地域おこし協力隊は、4つの形があります。

- ① 農業支援員 ▼ 町内で新規就農を目指す
- ② 教育魅力化支援員 ▼ 教育事業の魅力化を担う
- ③ 協働型 ※ ▼ 町内の事業者と共に新事業の創出や自立化を目指す
- ④ 起業型 ▼ 町内で起業を目指す
(※企業研修型から名称変更)

ローカルベンチャースクールは、厚真町で起業に挑戦する人材を募り、「起業型地域おこし協力隊」の選考を行います。事業プランに加え挑戦者の「本気と覚悟」を問うプログラムです。

厚真町内で行われる2泊3日の1次選考合宿(11月上旬)と、最終審査会(12月上旬)の通過者が翌4月に起業型地域おこし協力隊として着任します。

事業プランを磨き上げる

1次選考合宿では、参加者は最初から自らの事業プランをプレゼンテーションした後、質疑応答を行います。

続いて事業経験や知識が豊富でさま



講義を聴く参加者たち

さまざまな経験を積んだ「メンター(助言者)」と呼ばれる人たちが、事業内容・計画に関して個別面談(ローカルベンチャースクールでは「メンタリング」と呼んでいます)が行われます。参加者は合宿期間中に延べ10人ほどのメンタリングを5時間程度経験します。メンター一人ひとりがそれぞれの知見から参加者のために伝える言葉は、さまざまな角度から投げかけられるため、参加者にとって簡単に飲み込むことができないことも多く、「頭が真っ白になった」と話す人もいます。

これらの面談に加えて「地域で活動するプレイヤーとしての心構え」、「よい良いプレゼンテーションにするためのコツ」、「事業計画の考え方」といった「地域で起業していくために必要なこと」の講義も行われます。自らのプランの言語化・明確化、メンターからの思考のかき混ぜ、講義による知識の吸収。これらを短期間に集中的に行うことで参加者の意識は変わっていきます。そして最終日、あらためてプレゼンテーションを行い、審査が行われ1次通過者が決定します。

厚真町で実現するために

1次選考合宿から最終審査会まで1カ月ほどの時間を設けています。参加者の多くは厚真町外在住者のため、合宿参加の時点では、まだ厚真町を訪れた回数も少なく、厚真町のことを正確に把握できていないことがあります。そのため、合宿時点での計画は「厚真町でこのようにできるのではないかと」との仮説が大きく混在しています。この仮説を「厚真町できつとできる」と確信できるように、必要に応じてあらためて厚真町に足を運び、人に会い、厚真町の情報を集め、計画に織り込ん

でいく期間としています。また、メンターも、参加者の仮説の整理および適切な人や情報にアクセスできるように、1次通過者を支援します。

事業プランを発表
候補者は、このように事業計画を磨いた後に、「この事業を厚真町でやりたい!」という思いを胸に秘め、最終審査会のプレゼンテーションに臨みます。

最終審査会は、プレゼンテーションのみが行われる一発勝負で真剣勝負の場。試験を乗り越えると、ローカルベンチャースクールの通過者に選定され、春から厚真町で活動を始めます。

ローカルベンチャースクールを通じて、平成28年から12人の起業型地域おこし協力隊を受け入れました。令和3年度は新たに2人が通過し、4月から活動を開始しています。地域おこし協力隊は、今後とも広報紙で紹介します。町民の皆さんご支援をお願いします。



ローカルベンチャースクールの参加者たち

町内の方の参加も大歓迎です

ローカルベンチャースクールは、町内の方も事業計画を練る場として活用しています。現在、放課後子ども教室などで活動する上道と恵さん(上厚真)は、「今後の事業展開について考えた」と、令和2年のローカルベンチャースクールに参加しました。

新たな事業アイデアを形にする際に違う角度と見識から意見をもらう機会は貴重で、「発表する」ことを通じて自分自身の思いや構想を明確に言語化する機会となります。新事業を立ち上げたいなど、アイデアをお持ちの方は、ローカルベンチャースクールの場をぜひご利用ください。



ローカルベンチャースクールで事業プランを発表する上道さん

活動報告会を開催しました

総合福祉センターの大集会室で3月4日、地域おこし協力隊・地域活性化起業人(※)の活動報告会が開かれ、総勢24組が日ごろの活動を発表しました。

新規事業計画を着実に進めている起業型の協力隊や農業で栽培技術などを習得している農業支援員たちが、1人15分の持ち時間を使い、近況報告や課題、将来展望などについて発表しました。

このうち、この春、農家として独立する農業支援員は、イチゴの高設栽培などを紹介。「あつまイチゴ」などの栽培や直売、学校給食への提供など、今後の抱負を示しました。司会者から、協力隊としての3年間の感想を尋ねられると「町民に助けをいただき今があります。厚真町は、大人になって友人がたくさんできたすてきな町」と話し、人に魅力を感じると即答。他の発表者も含め会場から応援や激励の拍手が送られていました。

(※)都市部の企業に所属しながら自治体に派遣され、地域の活性化につながる事業を企画・実施する人材



温かい雰囲気の中で地域おこし協力隊の活動報告を聴く参加者